

■「ちくま評論入門」解説——読解問題への過程

2 三浦展「箱の増殖」

●参考 三浦展『下流社会』【361/M20/1】『下流社会 第2章』【361/M20/2】（北野高校図書館）

■目標 ・指示内容の吟味

・「切り身の方法」の適用

■追跡

① もう二〇年近く前にテレビや新聞で見たサティアンを思い出しながら、私は、最近、このサティアンに似た箱をよく目にするなど思った。一つは原発であり、もう一つはショッピングモールである。いずれも灰色やベージュの壁を持ち、入り口が少なく、窓のない四角い箱である。実際アメリカではショッピングモールをビッグボックスという。

読んで、はつとする。サティアンは、オウム真理教が毒ガスサリンなどを製造していた施設の名。「灰色やベージュの壁を持ち、入り口が少なく、窓のない四角い箱」。確かにそうだった。

② そして原発は、一般人は決して入れず、かつ理解することも制御することもできないブラックボックス的な空間という意味でもサティアンに近い。しかもオウムは最終的には東京上空からサリンをまいて東京中を抹殺することを企図していたのであり、原発は、起こるはずがないと言われていた事故によって放射能をまき散らした。そういうおびただしい恐怖が無味乾燥な箱の中から飛び出してきたのである。恐怖と危険の空間だからこそ、誰からも見られないように壁ばかりで窓もないのだ。幸福と安全の空間であれば、入り口も窓もたくさんつけるであろう。

原発との共通点。外部者にとって、理解&制御不能の自閉空間。恐怖をまき散らす。

③ 一方、ショッピングモールは、誰でも入ることができる幸福と安全の空間であるかのように振る舞っている。しかし、やはり壁によって閉ざされた空間であり、モールの大きさに比して極端に入り口が少なく窓もほとんどない。

ショッピングモール。筆者の考えでは、こちらにも、自閉空間。では、恐怖は？

④ もちろん、モールはまったく理解できない空間というわけではない。いや、多くの人は理解しているつもりになっているであろう。だが実は、そこがどういう仕組みで運営されているか、そこで売られているおびただしい物が、一体どこでつくられ、どこからどのように運ばれてきて、どのような考え方

- 1/6 -

で並べられているのかといったことについては、消費者はほとんど理解していないはずである。まして消費者はショッピングモールの主体的に制御することはできない。読解問題1その意味ではショッピングモールも一種のブラックボックスである。

ショッピングモール＝消費者（外部者）にとって、仕組みが理解できない・制御できない。

読解問題1「その意味」とはどのような意味か。

直前二文をまとめればいいわけだが、悔る勿れ。答えは、的確さで差が出ると予想する。だから書く人がきつといる。やめよ、だから。次の2点と見定めた上で、どう（刈り込む）か。失敗せずにやる方法——

①ショッピングモールがどういう仕組みで運営されているか、そこで売られているおびただしい物が、一体どこでつくられ、どこからどのように運ばれてきて、どのような考え方で並べられているのかといったことについて、消費者はほとんど理解していない。

②まして消費者はショッピングモールの主体的に制御することはできない。

①はこういう構造だ。

①ショッピングモールがどういう仕組みで運営されているか（＝そこで売られているおびただしい物が、一体どこでつくられ、どこからどのように運ばれてきて、どのような考え方で並べられているのか）について、消費者はほとんど理解していない。

よって、①は「ショッピングモールがどういう仕組みで運営されているかについて、消費者はほとんど理解していない」と刈り込める。②はそのままなので、

（解答例）「消費者は、ショッピングモールについて、それがどういう仕組みで運営されているか、理解できず、さらに（また、かつ）、主体的に制御することができない、という意味。」

主体的に制御する、をいいかえることもできる。

（例）意見を述べるなど、ショッピングモールの運営に参加すること。

⑤ そして、夏は涼しく、冬は暖かく、夜も明るいショッピングモールの中で消費者は快適に過ごすのであり、その快適さを支えるインフラとしての電力を原発という箱が供給していたのである。

原発↓電気↓ショッピングモール。自閉空間どうしの互助システム？

⑥ そのように考えてくると、私には、現代の都市が次第に箱化している、箱がどんどん増殖し、巨大化し、また適在化しているように思えてくる。われわれの身の回りに様々な箱ができて、それらによっ

- 2/6 -

てわれわれの生活が包圍され、支配されているように思えるのである。

生活が「箱」によって支配されている。しかし、「箱」は複雑すぎて理解できない。理解できない者にとつて「箱」は恐ろしい。

⑦ たとえばマンションやオフィスビルは箱であるという比喻には誰もが納得するであろう。かつマンションもオフィスビルも閉じた箱としての性格を強めている。マンションにはオートロックや監視カメラが付き、オフィスビルにはカードが入れず、もちろん監視カメラだらけである。

⑧ それだけではない。近年は駅も箱化している。駅ビルの増加、さらには駅ナカ、駅地下と呼ばれる施設の増大によって、われわれは駅という箱の中で、しばしば改札を出なくても、多くの消費をし、余暇時間を過ごすことができるようになった。

「箱化」の事例。これは、家と職場じゃないか。生活空間そのものじゃないか。そして、駅。家と職場をつなぐ場所ではないか。

⑨ さらにこの駅とマンションやオフィスビルが地下道などで直結し、全体としてより大きな箱になってきている。マンションの自室からエレベーターで降りると地下道などで地下鉄に直結し、地下鉄に乗って会社のある駅で降りると、駅からまた地下道などでオフィスビルに直結するということも珍しくなくなりつつある。

⑩ しかもその地下道に沿ってファストフード店などが並んでおり、われわれはそこでパンやコーヒーを買う。プロイラーは自分たちは動かずに流れてくるえさを食べるが、**読解問題2**この箱化した都市空間では、われわれは歩いている途中でいやがおうにもえさ場を発見させられ、ついついそこで金を落とすという仕組みになっている。

「箱」の中を往復し、「箱」の中で飼われている人間。「箱」から出ることなく、出ようとも思わず、いつのまにか、〈主体性〉をなくしたまま、ただ生存し、流れ回っていく。

読解問題2「この箱化した都市空間では、われわれは歩いている途中でいやがおうにもえさ場を発見させられ、ついついそこで金を落とす」とはどのようなことか。

☆切り身にして、それぞれをいいかえる、という戦略でまず答案を作ってみよう。

「Aこの箱化した都市空間では、／Bわれわれは歩いている途中でいやがおうにもえさ場を発見させられ、／Cついついそこで金を落とす」。

抽象的で比喩的な部分なので、いいかえは「具体的」なものにすることになる。直前を使えばいい。内容をメモするなら、

① 駅とマンションやオフィスビルが地下道などで直結し、全体として大きな箱になっている。
② マンションの自室↓エレベーター↓地下道↓地下鉄↓会社のある駅↓地下道↓オフィスビルに直結する。(①の具体化)

③ 地下道に沿ってファストフード店などが並ぶ↓そこでパンやコーヒーを買う(プロイラーが流れてくるえさを食べるように)

A「箱化した都市空間」のようすが①②、B「えさ場の発見」が③の前半、C「お金を落とす」が③の後半だ。

(解答例1)——①③をつないでだけ。

「駅とマンションやオフィスビルが地下道などで直結し、全体として大きな箱になっている都市空間では、われわれは自宅と職場の往復の経路の途中で、地下道に沿って並んでいるファストフード店を見、そこでパンやコーヒーを買うということ。」

何か足りないよね。足りないのは「いやがおうにもえさ場を発見させられ、ついついそこで金を落とす」の波線部の含意だ。これは経験があるから、わかるよね。「目に入り、食べたいという欲望がかき立てられ、つい買わされてしまう」ってやつ。これをそのまま使えばいい。

(解答例2)「自宅と職場が駅・地下道で直結し、全体として大きな箱になっている都市空間では、地下道の店が必然的に目に入り、食べたいという欲望がかき立てられ、つい買わされてしまう、ということ。」

「生活空間がその箱の中で完結している」というニュアンスもある。飼われている鶏と同じように。

⑪ 横浜のみなどみらい駅などはまさにこれである。手塚治虫が描いた未来都市の姿もかくやと思わせる眺めだ。ここでは電車を降りて改札を出ると地下三階である。そこからランドマークタワー、クイーンズスクエア横浜、横浜美術館などに地下道でつながっている。地下道にはもちろんたくさんのお店が並んでいる。地下三階から地上一階まではエスカレーターでも上れるが、地上と言ってもビルの中である。一階から下を見下ろすとガラス越しに電車が見え、その隣には洒落たカフェテラスがある。吹き抜け空間だからあまり箱的な閉鎖性はないが、明らかに箱である。

⑫ つまりわれわれは、いわば、快適でお洒落な都市の箱の中で、殺されない代わりに歩きながら金を払うプロイラーとして生かされている。いや、本当に殺されずにすむのかは不明であるが、多くの人たちはその仕掛けを快適、便利と感じ、**読解問題3**自分が歩きながら金を払うプロイラーであるなど疑うことはないのである。

「金を払うプロイラー」というところがポイントかもしれない。「箱」を形成している

のは、経済システム。人間は、そのシステムの中の部品にすぎない。ひとりひとはシステムの何がどうなっているのか、まったく理解できない。全体を理解している者は、どこにもいない。経済システムの維持のために、すべては回転している。人間のためではない。プロイラーがプロイラー自身のために生存しているのではないように。こわっ！

読解問題3「自分が歩きながら金を払うプロイラーであるなどと疑うことではないのである」とはどのようなことか。

これも☆切り身の方法でやってみよう。

「A自分が歩きながら金を払うプロイラーである／Bなどと疑うことはない」

Aが真実。しかしB本人はそれを知らない。

直前の内容をどう使うか吟味しよう。

「つまりわれわれは、いわば、快適でお洒落な都市の箱の中で、殺されない代わりに歩きながら金を払うプロイラーとして生かされている。多くの人たちはその仕掛けを快適、便利と感じている」

① 「殺されない代わりに歩きながら金を払うプロイラー」という比喻をかみくだく。

② 「疑わない」＝「むしろその仕掛けを快適、便利と感じている」と置き換える。

①は、読解問題2の内容と重なる。

「大きな箱になっている都市空間で、地下道の店が必然的に目に入り、食べたいという欲望がかき立てられ、つい買わされてしまっている状態。」

真実（俯瞰した視点）から見れば、A「私たちは閉じた空間から出ることなく、欲望をかき立てられ、商品を買わざるを得ない仕組みの中にいる」のだが、B「むしろそのしくみの中で暮らすことを快適、便利と感じている」。これで材料はそろった。

（解答例）「現代の都市空間に住む人間は、閉じた都市空間から出ることなく、欲望をかき立てられ、強制的に商品を買わされるしくみの中で生活しているが、むしろその生活を快適だと感じ、自分たちから自由や主体性が奪われていることに気づいていない、ということ。」

短くしたり、いろんなバージョンで書いてみよう。

（解答例一別）「現代人は、（鶏のように）都市空間に閉じ込められ、強制的に商品を買わされるしくみの中で生活しているのに、それに気づかず、むしろその生活を快適だと感じている、ということ。」

■読解問題

- 1 「その意味」とはどのような意味か。
- 2 「この箱化した都市空間では、われわれは歩いている途中でいやがおうにもえさ場を発見させられ、ついついそこで金を落とす」とはどのようなことか。
- 3 「自分が歩きながら金を払うプロイラーであるなどと疑うことではないのである」とはどのようなことか。

■発展問題

- 1 筆者の指摘以外に「箱」化したものを取りあげ、どのような点で「箱」なのか論じよう。
- 2 「箱」化がどのような生じたのか、仮説を考えた上で、その末路やそれを乗り越えていくみちすじについて論じよう。

●重要語「都市」